
奇術愛好家オマケ

ペロコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

奇術愛好家オマケ

【Zコード】

Z0914D

【作者名】

ペロロ

【あらすじ】

なんて工夫のないタイトル！スマセン：お分かりの通り、オマケです。かなり短いです 快斗一人称となっています。奇術愛好家その後 もう、ここでは何も語りません。後書きでたっぷり書いてるんで（汗） では、読んでいただけたら嬉しいです（*^-^*）

肌寒い朝、いつものように学校で新聞を開き、思わずタメ息をついてしまった。

朝刊に『デカデカと載っている文字を読むと、どうしても悔しくなる。

『インターネットのオフ会で殺人事件！ 犯人はあの奇術師の孫娘』

昨日、軽い気持ちから参加した『奇術愛好家』のオフ会は、予想もしなかつた出来事がとにかく続いた。

鈴木財閥のお嬢さんがオレのファンだと知った。
探偵くんの謎はますます深まった。

そして何より、人が死んだ。オレの目の前で。

『止めたかったよ、今回の悲しい殺人は……』

そう悔しそうに咳いた小さな名探偵には、フォローを入れておいた。
だがしかし、オレなら止められたはずだ。おそらくは。

探偵くんは本当に風邪で倒れてたし、しょうがないんだ。
でも、でもオレは、マジックをやつてる時も目の前で見てた。

「それ、イカサマですよ?」「
と書つことだつてできたんだ。

それなのに、オレは何もしなかった。言わなかつた。

「何してんの? 快斗!」
「あ、青子か。見て分かんねえのか? 新聞読んでんだよ」「
それにしては何か暗い感じがしたけど……。あ、この事件があ
「青子も知つてたのか。意外だな」
「何よ、失礼ね! 青子だつてちゃんとニコース見てるもん!—!」

この事件に、キッドが関わっていたことは伏せられている。
きっと、あの小さな探偵くんも何も言わなかつたんだろう。

「でも、快斗もショックだよね。春井風雲さんのマジックも好きだ

つたもんね」

「あ……」

オヤジと回じで、常に温かくマジックを披露していた春井風雲さんは、「ぐくたまに、ドキドキさせられるマジックを披露したりして、小さじ頃感動したことを見えている。

だからこそ、彼の孫娘がそんな犯罪に手を染める前に止めたかったのだ。

「……」

「あれ？ 何で青子がそんなに暗い顔してんの？」

「だって……そういう風に人を殺しちゃう前に、誰かに言つことも出来なかつたのかなって思つたら、悲しくて……」

優しい、優しい青子。

何も、青子が悲しくなる理由なんか無いのに、こうして泣きやうな表情になる。

「えっ！？」

POM

「つたく、青子がそんなこと思わなくてもいいだろ？ そりや、田中さんが人を殺す前に誰かに言つてたら変わつてたかもしんねえけどな」

バラを出して渡しつつ青子に言ひ。

「せうだけじ……」

「だあああつ！ 泣くんじやねえよ、朝つぱらからー…………悪かつたよ、こんな記事読んでてさ」

「え、別に快斗は悪くないよ。青子が勝手に感傷的になっちゃつたから……。バラ、ありがと」

ちよつと涙でうるんだ瞳で笑おつと努力している青子の表情は、さつきよつも少しではあるが明るくなつていて、ホッと安心する。

「せうと、ちやんと罪を償つてくれるよね」

オレが『弱い』顔が田の前で口ロ口ロと表情を変える。

「ああ、せうと」

そう言つと、満足そうとこいつが安心した顔でバラを見つめた。こいつの所は幼いなと思つ。

「あ、そうだ快斗！宿題見せてー。昨日寝ちゃつて出来てないの

- - - - -

お子様だな、青子は

「お、お子様じきないもん！」

いいぜ、貸してやるよノーノ

の だ ゼ ?
あ り が た く 思 え よ ?

「ありがとう、快斗！ あ、だからって授業中寝ちゃダメだよ？」

גַּת־עֲמִים

「快斗も気にしちゃダメだよ？」
「じゃ、ノートありがとー。」

ପ୍ରକାଶକ ପତ୍ର

でも、青子に言われてさつきまで心に何か、のしかかるような物を感じていたのが、軽くなっているのに気づいた。

「ハハ、現金だなオレも」

誰かにフォローを入れてもらいたかったのだろうか。
まだまだ弱えなあ……。青子がいてくれてよかつた。心からそう思
える。

肌寒い朝なのに、温かい気持ちになれたのは、きっと青子のおかげ
だと思つ。

サンキュー、青子。

口ひみ出しじやんねーけどな。

(後書き)

【書こうかやつたよ、オマケー】（ やっぱりタイトル？）

こんなにひば、ペロコです。実は日曜日が模試だつたりしますが、こうやって小説かいてます。

危険だなと思いつつもやめない辺りがアホです。

タイトルを見ても読んでも分かるように、奇術愛好家その後。『キッズ side』版。
ちょっとシリアス気味ですかゞ、まあコノせコノド。あいつ事件でしたしね。

実は、1年前の今日スタートしたんですよ。『キッズ side』が。ということです。

どの話にもオマケはあるのに、奇術愛好家だけ書いてなかつたんですね～。何で書いてないのかは自分でも分からない（といふか覚えてない）んですけど。

とりあえずは、『キッズ side』をたくさんの方に読んでいただけた感謝とお礼、そして1周年記念（コレはあんまり関係ないか？）を込めてありがとうございます。本当にありがとうございます！

その『キッズ side』ですが、本当にたくさんの方に「続きを読もう！」と喜びコメントをいただいて、かなり喜んでいます。ね、快斗？

「おうよー、みんな優しいんだな。温かいメッセージをこんな作者にくれるなん……」「フツ」

『いんな』と言つたので、排除。お見苦しいこといひを……（汗）

実は、考へてるんですけど、難しいんですね~。

「なつ！ それでは私の活躍はどうなるのです！？」

復活早……。しかもキッドだし。

「どういづいとですか！？」

ま、それはこっちの事情なのよ。頑張るつもりだけね。

「そ、そんな……」

POM

あ、スネた。

えっと、逃げた（といつかスネた）ので、追いかけます！
また意味不明に快斗に乱入されてスイマセン。

この話のこと何にも書いてませんが、読んでそのまま受け取つても
らえたら……いいんだと思います。

では、追つかけてきます！ 感想をいたいた方には、お返事は逃
げた罰としてキッドに書かせますので。

それから、ただ今平次・和葉執筆中です！

では！ これからもよろしくお願ひしますね。

ビビビビビ……（ 鈍足）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0914d/>

奇術愛好家オマケ

2010年10月9日19時42分発行